

おわりに

震災後、はや1年が過ぎようとし、被災地では復旧復興に向けて立ち上がり、宝塚の街もだいぶ落ちつきをとりもどしてきました。

しかし、被災した人々の心には地震時の恐怖で受けた精神的ダメージ、家族・友だちとの分離、住み慣れた家の破壊、不自由な仮設住宅での生活等が深い傷となり残っています。

「がんばれ」という善意からの一言が、逆に被災者の気持ちを逆なでする場合もあります。「無理に励まさない」「孤独感を持たせない」「相談にのるときは具体的な対応を」等が、心構えとしての教訓です。

巨大地震を体験した私たちは、新たな防災教育の必要性を強く感じるとともに、この震災体験を伝達することにより、防災対策の参考になれば幸甚です。

震災記録集を編集するにあたり、ご協力いただきました各学校と児童・生徒のみなさん、また各関係機関の方々に心から感謝申し上げます。

平成8年1月17日

震災記録集編集委員一同